

女性から女性サブグループへのネガティブな態度

－性役割観とサブグループ・アイデンティティからの検討－

○覃宝妮・森永康子

(広島大学大学院教育学研究科)

覃・森永(2018)は、女性から女性サブグループへのネガティブな態度についてジェンダーアイデンティティと性役割観から検討した。本研究は主婦(HW)と働く女性(CW)を用いて、サブグループへのアイデンティティと性役割観から女性の女性に対する態度を検討する。CW へのネガティブな態度は、伝統的性役割規範に反した CW によって伝統的な価値観への脅威を感じるために生じることが示されてきた(e.g., Duckitt, 2006)。逆に性役割観が進歩的な女性ほど進歩的規範に反した HW に脅威を感じ、ネガティブな態度を示す可能性が考えられる。

本研究は女性のサブグループへのアイデンティティ(以下 CWI と HWI)にも焦点を当て、女性の女性に対する態度を検討する。内集団にポジティブな情報が付与されると、内集団アイデンティティが高くなるという指摘がある(Axt et al., 2018)。性役割観も内集団のポジティブな情報を含んでいるため、CWI と HWI に影響することが考えられる。さらに、一方のアイデンティティが高くなると、もう一方の女性サブグループとの心理的距離が遠くなり、よりネガティブな態度を示す可能性がある。仮説 1. 性役割観が価値観脅威を介して、HW や CW への態度に影響する。仮説 2. 性役割観が女性サブグループへのアイデンティティに影響し、心理的な距離を介して HW や CW への態度に影響する。

方法 参加者 女性 521 名(M=39.4, SD=5.69; 働く女性 266 人, 主婦 255 人)。刺激人物(CW vs. HW)は参加者間要因。ネット調査を行った。質問紙の構成 (1) CWI と HWI の測定: 各 3 項目 ($\alpha=.767; .758$) (2) CW と HW への心理的距離: 各 2 項目 ($\alpha=.674; .611$) (3) 性役割観: SESRA-S (鈴木, 1994)を一部修正 8 項目 ($\alpha=.839$) (4) 刺激人物: CW vs. HW(本研究では働く女性→HW, 主婦→CW のみを報告する) (5) 価値観脅威: Duckitt (2006) に基づいて作成 3 項目($\alpha=.884$) (6) 刺激人物への態度 3 項目($\alpha=.883$) (7) その他, 操作チェックなど。(1)から(6)の回答は 6 件法。

結果と考察 Figure1 のようなモデルを作成し, SEM により検討した。なお, 学歴と婚姻状況, 勤続年数

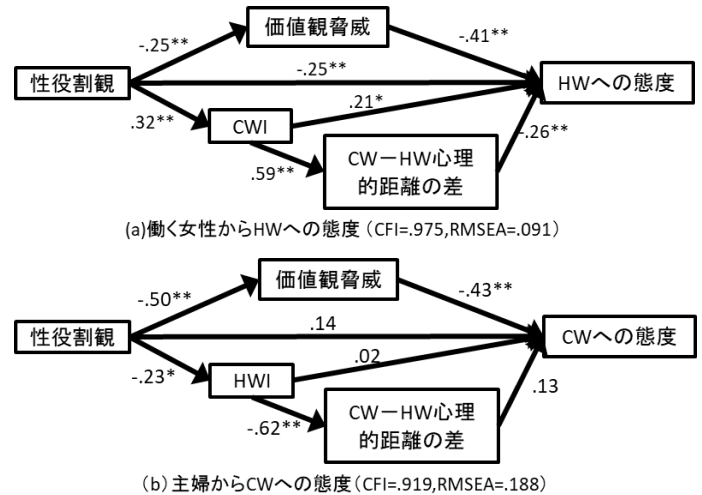


Figure1 SEM の結果

あるいは主婦をしている年数を統制した。

参加者が働く女性の場合、性役割観が進歩的であるほど HW にネガティブな態度を示した。しかし、脅威を減じると HW への態度がポジティブになった。また進歩的なほど CWI が高くなり、HW への態度がポジティブになったが、HW に比べ CW との心理的距離が短くなると HW にネガティブな態度を示した。働く女性では、性役割観から HW に対する態度への直接的な影響以外に、価値観への脅威と CWI の 2 つのルートがあると考えられる。性役割観が進歩的であるほど HW への態度がネガティブになるという直接効果が一番大きい、同時に HW が脅威ではないという認知が強くなり、また、CWI が高くなる (CWI が高くなると、女性全体への心理的な距離も近くなると考えられる) ことで、HW によりポジティブな態度を示すと考えられる。

参加者が主婦の場合には、CW へのネガティブな態度は価値観脅威を媒介することによって生じていた。性役割観は HWI や心理的距離に影響を与えていたが、CW への態度には結びつかなかった。伝統的な性役割規範に合う主婦には、規範に反した CW を価値観への脅威と見なしてネガティブな態度を示す傾向が強いと考えられる。

以上のことから、仮説 1 と 2 は部分的に支持された。